

## 柏の景気情報（平成18年7月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成18年7月分）

○ 調査期間 : 平成18年7月20日 ~ 7月25日

○ 調査対象 : 柏市内100事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	100	73	73.0%
建設	17	14	82.4%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	41	28	68.3%
サービス	19	13	68.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【18年7月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月ぶりにマイナス幅が縮小 ▶

○7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が△0.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△22.2(同△33.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21.4(同▲33.3)である。変わらない業種は、建設業▲42.8(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲30.7(同▲21.4)である。

【建設業】では、「原油高騰の影響でメーカー材料が4～7月に単価の値上げをしたため利益を圧迫」(建築工事)、「原材料それに拘る材料等の値上げなどで利益が圧迫」(建築工事)との仕入上昇の声が寄せられた。「受注競争は依然として厳しく、仕事量は増加したが採算の合わない物件多い」(建築工事)、「仕事量は変わらないが請負単価が落ちている」(土木工事)、「人手は必要としているが給料等(特に賞与)は下げざるを得ない状況」との厳しい声が寄せられた。「梅雨のためか少し動きが悪いが天気が良くなれば良くなると思う」(電気工事)との天候の影響に関する声も寄せられた。

【製造業】では、「原油高騰の影響で原材料価格が上昇し利益が圧迫」(工業用ゴム製品製造)との仕入上昇の影響や、「6月の気温は平年に比べると-0.4℃、昨年に比べると-1.2℃となり、飲料主要メーカー 1～6月は前年比99%で終了」(清涼飲料製造)との天候の影響に関する声が寄せられた。「北越製紙が三菱商事からの出資を受け傘下に入ると発表し、王子製紙もTOBを実施すると発表するなど成り行きを注目」(紙製容器製造業)との業界の先行きを不安視する声が寄せられた。「今後先方での製品在庫の調整により右肩上がりは難しい」(その他の鉄鋼業)との厳しい声が寄せられた。しかし、「ユニットハウスのレンタルは好調を維持」(建築用金属製品製造)、「複写機業界は好転しており当社への注文が一時的に増加」(その他の鉄鋼業)との明るい声も寄せられた。

【卸・小売業】では、「客数、単価ともに低下しており厳しい状況、梅雨が長引いていることが痛い」(各種商品小売)、「ビール・ソフトドリンク・アイスクリームなど暑さで売れる商品が振るわない」(各種商品小売)、「雨の日が多く客足が悪い」(菓子・パン小売)、「天候が安定せず、見切りに入った夏物の動きが良くない」(各種商品小売)、「月初は天候不順で、入店客数・売上共に低調な推移」(各種商品小売)との天候の影響に関する声が多い。「競合店オープン以来、衣料・住居の昨割れが続いている」(各種商品小売)、「1人当りの買上実数は上昇しているが、平均客単価の下落が続いている」(各種商品小売)、「景気は悪い。競合店の影響大」(書籍・文房具小売)、「秋のららぽーとのオープンもマイナス要因」(飲食料品小売)との大型店開店の影響に関する声も多い。「野菜・果物とも入荷減少」(食料・飲料卸売)、「単価が増加しているにも関わらず、売上がわずかに減少。消費動向は依然厳しい状況」(食料・飲料卸売)、「前月のたばこ値上げに対する駆け込み需要の反動で、たばこの売上げが落ちた」(各種商品小売)、「取引業者2社が経営破たん。商品の遅配が心配」(飲食料品小売)、「プロパー売上不振。催事の成否が売上のカギを握る」(時計・眼鏡・光学機械小売)との厳しい声が寄せられた。その反面、「学生衣料、プール用品とも前年比増好調」(飲食料品小売)、「中元商戦は前年売上をやや上回る」(百貨店)、「学用品関係を中心に売上・利益とも増収」(飲食料品小売)、「虫さされ薬・水虫薬・日焼け止めが好調」(医薬品・化粧品小売)、「セール期間中に売上最高額を達成し、月初の落ち込みをカバーできた」(各種食料品小売)との明るい声も寄せられた。「原油価格上昇で末端価格も上昇」(ガソリンスタンド)、「CO中毒事故の影響で電化が進む確率が高まった」(燃料小売)との声も寄せられた。

【サービス業】では、「予約客は動き始めて来ているが、依然フリー客の動きがにぶい」(食堂・レストラン)、「景気が良くなっているようには思えない」(食堂・レストラン)、「暑さで来客数が減っている」(不動産管理)、「賃貸物件も空調がないなど設備が劣る所は厳しい」(不動産管理)との厳しい声が寄せられた。その反面、「施設の改装工事を8月に行うので、今後の集客力と利用率の向上に期待」(冠婚葬祭業)、「スポーツ団体宿泊客増加。展示会など好調」(ホテル)との明るい声も寄せられた。

◎天候の影響

「梅雨のためか少し動きが悪い」、「気温が例年よりも低かった」、「客数、客単価ともに低下しており厳しい状況、梅雨が長引いていることが痛い」、「天候の影響でビール・ソフトドリンク、アイスクリームなど暑さで売れる商品が振るわない」、「雨の日は客足が悪い」、「天候が安定せず、見切りに入った夏物の動きが良くない」、「天候不順の影響で入店客数・売上共に低調な推移」との声が寄せられた。

◎売上・受注・客数減少

上記の天候の影響の他に、「競合店のオープン以来、衣料・住居の売上で昨割れが続いている」、「売上はわずかに減少し、消費動向は依然厳しい状況」、「前月のたばこ値上げに対する駆け込み需要の反動で、たばこの売上げが落ちた」、「月初では天候不順だったことや、セール前の買い控えもみられたことから、入店客数・売上共に低調な推移となった」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
2月	▲5.3	▲8.3	△11.1	▲12.5	▲7.6
3月	▲3.8	±0.0	△11.1	▲9.6	▲14.2
4月	▲2.6	△7.6	△23.5	▲9.3	▲28.5
5月	▲15.2	▲21.4	△5.8	▲26.6	▲9.0
6月	▲17.1	▲42.8	△33.3	▲33.3	▲21.4
7月	▲16.4	▲42.8	△22.2	▲21.4	▲30.7
見通し	▲8.2	▲35.7	△16.6	±0.0	▲30.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 23.2	▲ 17.8	▲ 36.9	▲ 35.6	△ 9.5	△ 12.3
建設	▲ 14.2	▲ 35.7	▲ 64.2	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 7.1	±0.0
製造	△ 38.8	△ 27.7	△ 22.2	△ 5.5	▲ 50.0	▲ 44.4	△ 22.2	△ 22.2
卸・小売	▲ 14.2	△ 7.1	▲ 32.1	±0.0	▲ 32.1	▲ 28.5	△ 3.5	△ 7.1
サービス	▲ 30.7	▲ 23.0	▲ 23.0	▲ 38.4	▲ 23.0	▲ 30.7	△ 23.0	△ 23.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.4	▲ 8.2	▲ 8.2	▲ 5.4
建設	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 7.1	±0.0
製造	△ 22.2	△ 16.6	±0.0	±0.0
卸・小売	▲ 21.4	±0.0	▲ 10.7	▲ 7.1
サービス	▲ 30.7	▲ 30.7	▲ 15.3	▲ 15.3

【平成18年7月の業況についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が△0.7ポイント縮小した。

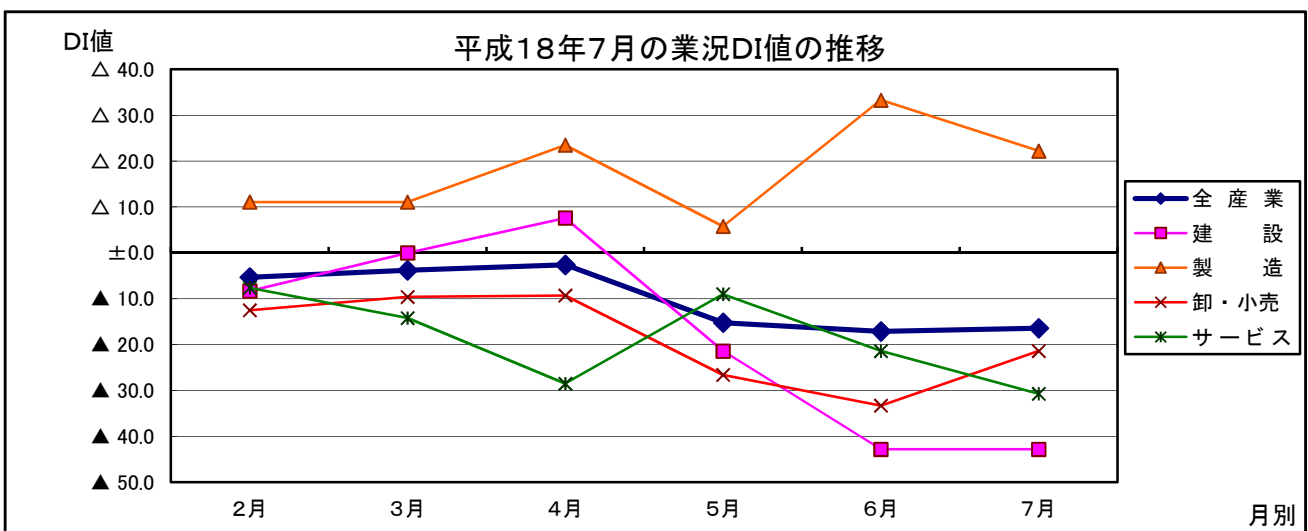
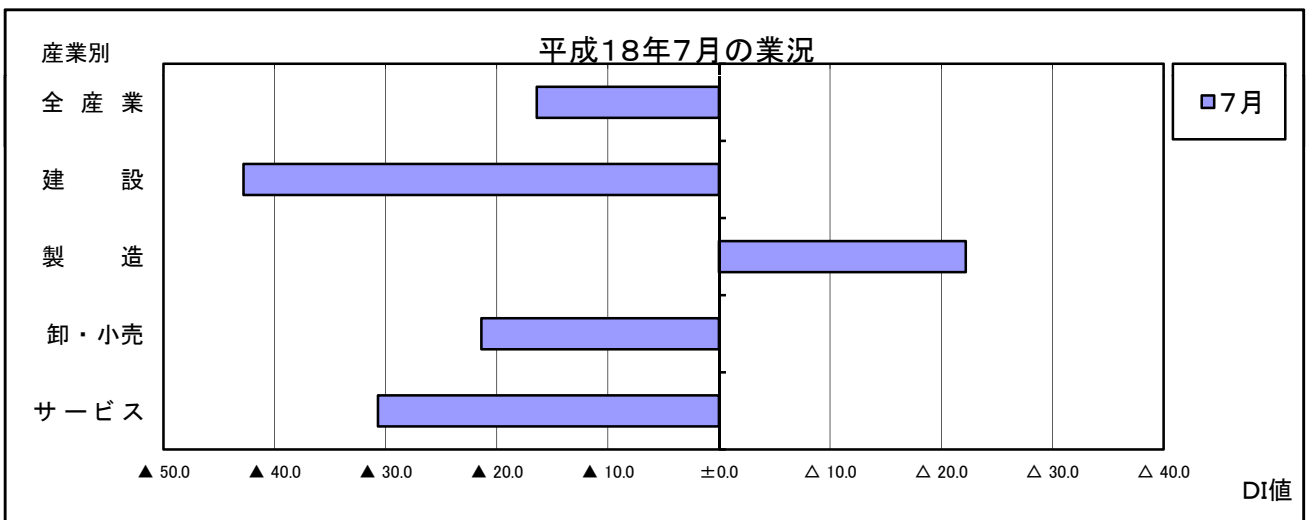
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△22.2(同△33.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21.4(同▲33.3)である。変らない業種は、建設業▲42.8(同▲42.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲30.7(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.2(前月水準▲11.8)となり、マイナス幅が△3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△16.6(同△5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲10.0)である。変らない見通しの業種は、建築業▲35.7(同▲35.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲30.7(同▲14.2)である。

平成18年7月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲5.3	▲3.8	▲2.6	▲15.2	▲17.1	▲16.4	▲8.2(▲11.8)
建設	▲8.3	±0.0	△7.6	▲21.4	▲42.8	▲42.8	▲35.7(▲35.7)
製造	△11.1	△11.1	△23.5	△5.8	△33.3	△22.2	△16.6(△5.5)
卸・小売	▲12.5	▲9.6	▲9.3	▲26.6	▲33.3	▲21.4	±0.0(▲10.0)
サービス	▲7.6	▲14.2	▲28.5	▲9.0	▲21.4	▲30.7	▲30.7(▲14.2)



【平成18年7月の売上についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.1(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が△10.3ポイント縮小した。

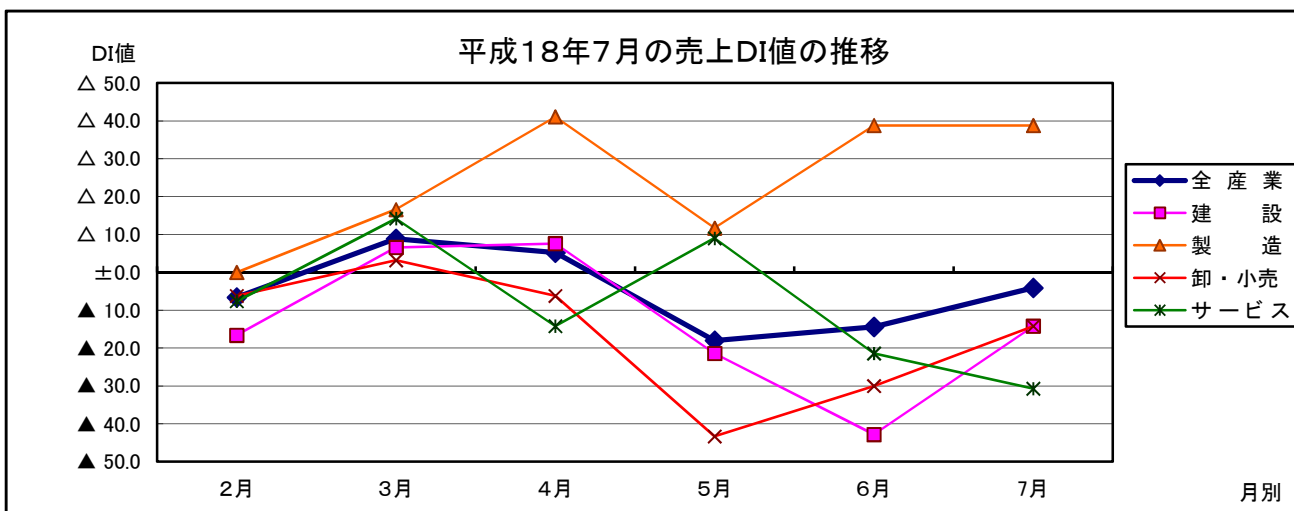
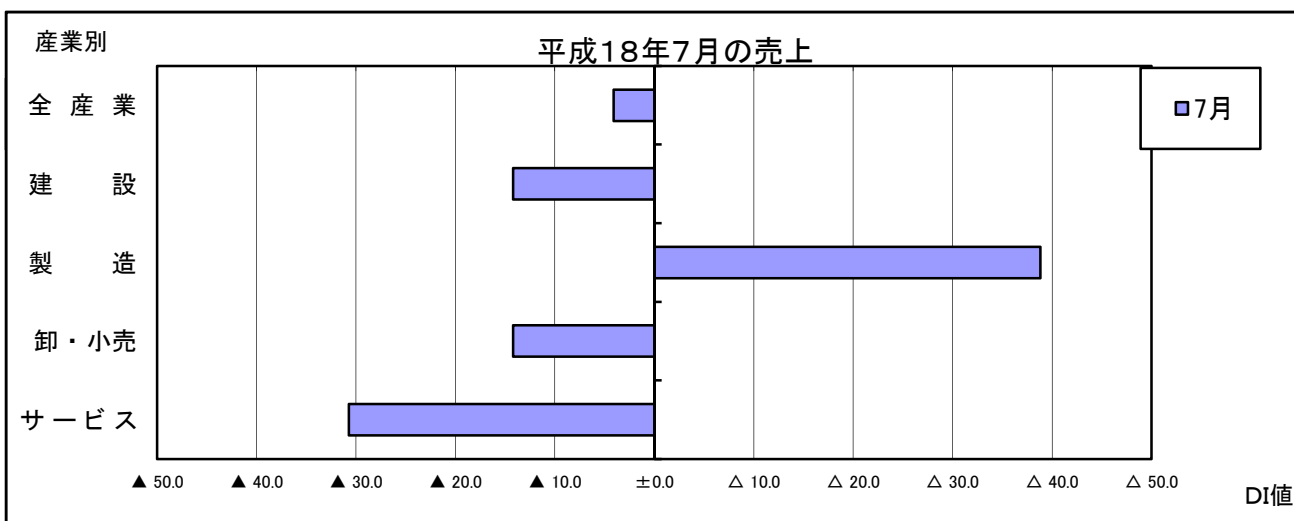
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲42.8)、卸小売業▲14.2(同▲30.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が△28.6ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、製造業△38.8(同△38.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲30.7(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.3(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が△5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△27.7(同△22.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△7.1(同▲6.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲35.7(同▲35.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲23.0(同▲14.2)である。

平成18年7月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲6.6	△8.9	△5.2	▲18.0	▲14.4	▲4.1	▲1.3(▲6.5)
建設	▲16.6	△6.6	△7.6	▲21.4	▲42.8	▲14.2	▲35.7(▲35.7)
製造	±0.0	△16.6	△41.1	△11.7	△38.8	△38.8	△27.7(△22.2)
卸・小売	▲6.2	△3.2	▲6.2	▲43.3	▲30.0	▲14.2	△7.1(▲6.6)
サービス	▲7.6	△14.2	▲14.2	△9.0	▲21.4	▲30.7	▲23.0(▲14.2)



【平成18年7月の採算についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.2(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が▲0.9ポイント拡大した。

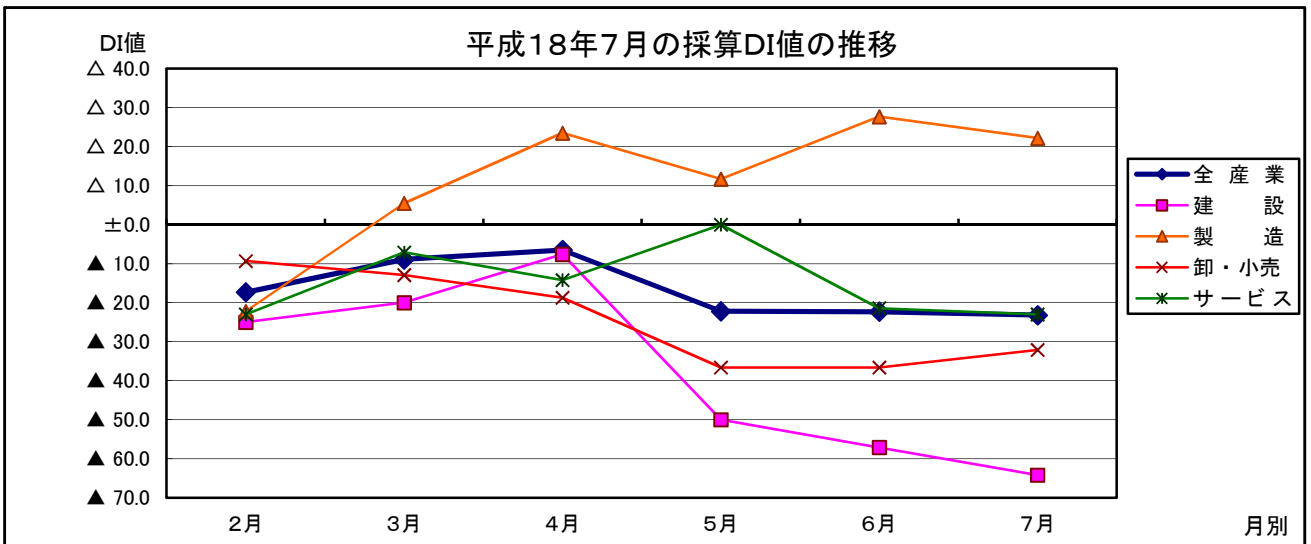
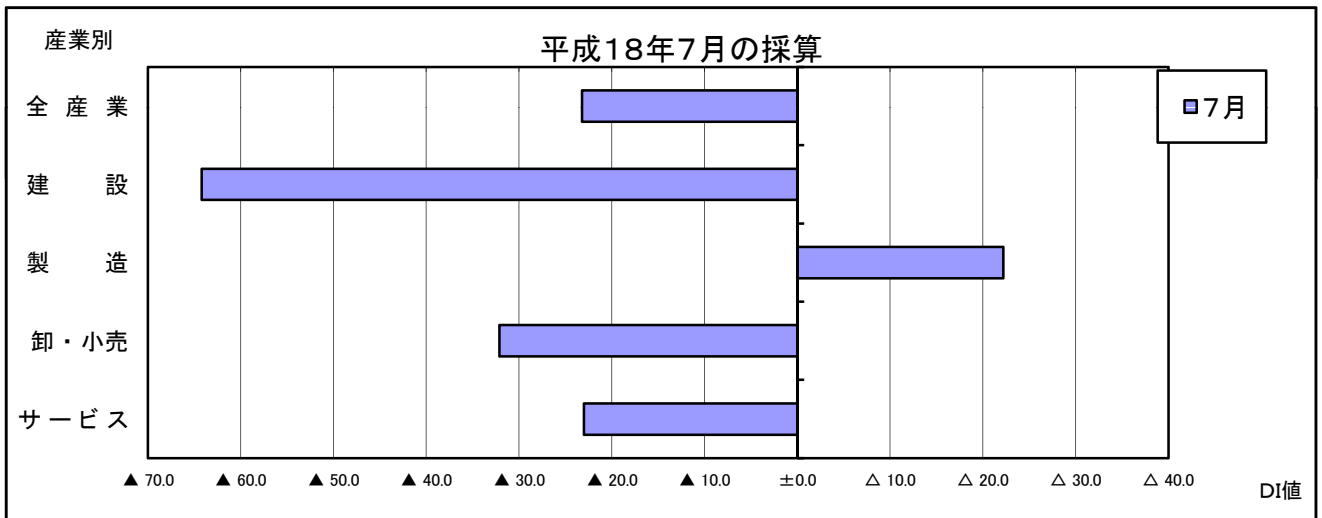
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△22.2(同△27.7)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲36.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲57.1)、サービス業▲23.0(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.8(前月水準▲10.5)となり、マイナス幅が▲7.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業±0.0(同▲10.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲7.1)、建設業▲64.2(同▲57.1)である。特に、サービス業はマイナス幅が▲31.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成18年7月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲17.3	▲8.9	▲6.5	▲22.2	▲22.3	▲23.2	▲17.8(▲10.5)
建設	▲25.0	▲20.0	▲7.6	▲50.0	▲57.1	▲64.2	▲64.2(▲57.1)
製造	▲22.2	△5.5	△23.5	△11.7	△27.7	△22.2	△5.5(△22.2)
卸・小売	▲9.3	▲12.9	▲18.7	▲36.6	▲36.6	▲32.1	±0.0(▲10.0)
サービス	▲23.0	▲7.1	▲14.2	±0.0	▲21.4	▲23.0	▲38.4(▲7.1)



【平成18年7月の仕入単価についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.9(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲2.7ポイント拡大した。

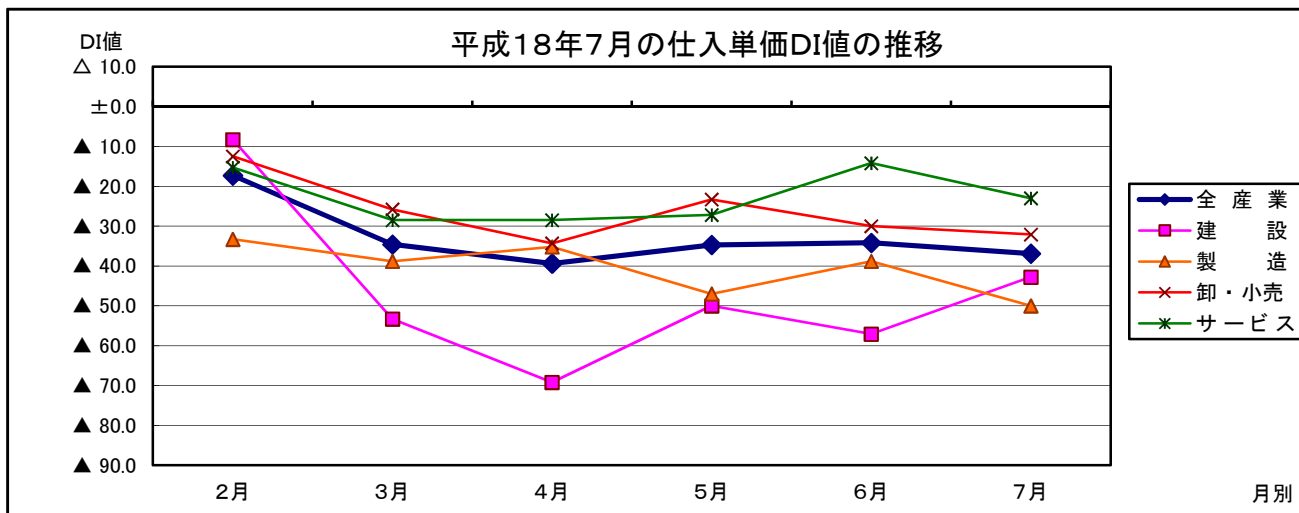
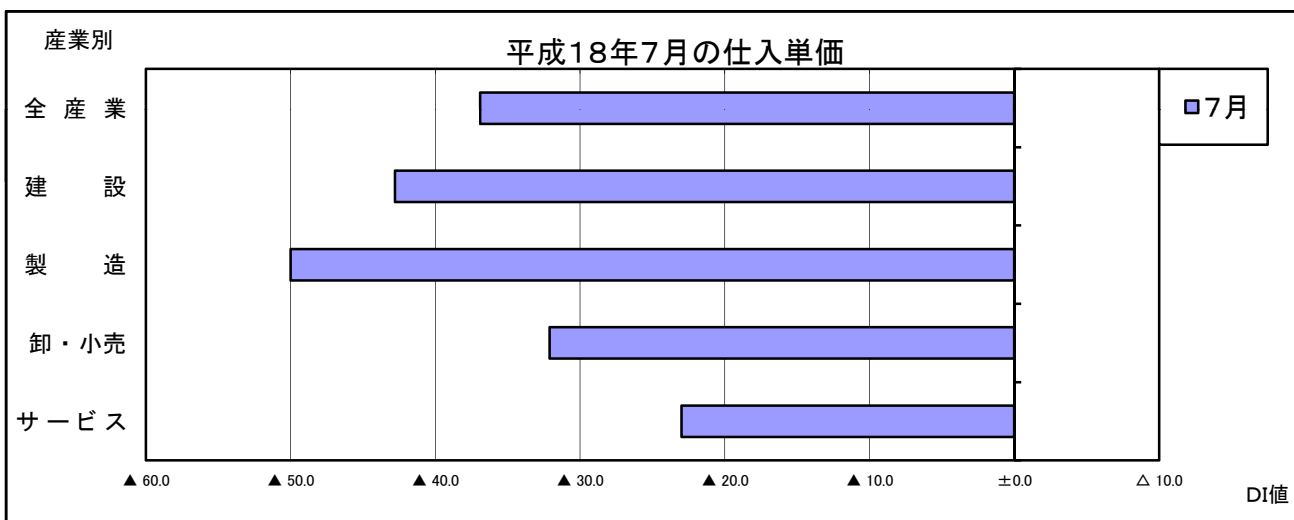
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲42.8(同▲57.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲50.0(同▲38.8)、サービス業▲23.0(同▲14.2)、卸小売業▲32.1(同▲30.0)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲35.6(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲50.0)、卸小売業▲28.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲44.4(同▲33.3)、サービス業▲30.7(同▲21.4)である。

平成18年7月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲17.3	▲34.6	▲39.4	▲34.7	▲34.2	▲36.9	▲35.6(▲34.2)
建設	▲8.3	▲53.3	▲69.2	▲50.0	▲57.1	▲42.8	▲42.8(▲50.0)
製造	▲33.3	▲38.8	▲35.2	▲47.0	▲38.8	▲50.0	▲44.4(▲33.3)
卸・小売	▲12.5	▲25.8	▲34.3	▲23.3	▲30.0	▲32.1	▲28.5(▲33.3)
サービス	▲15.3	▲28.5	▲28.5	▲27.2	▲14.2	▲23.0	▲30.7(▲21.4)





【平成18年7月の従業員についての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、 $\Delta 9.5$ (前月水準 $\Delta 9.2$ )となり、プラス幅が $\Delta 0.3$ ポイント拡大した。

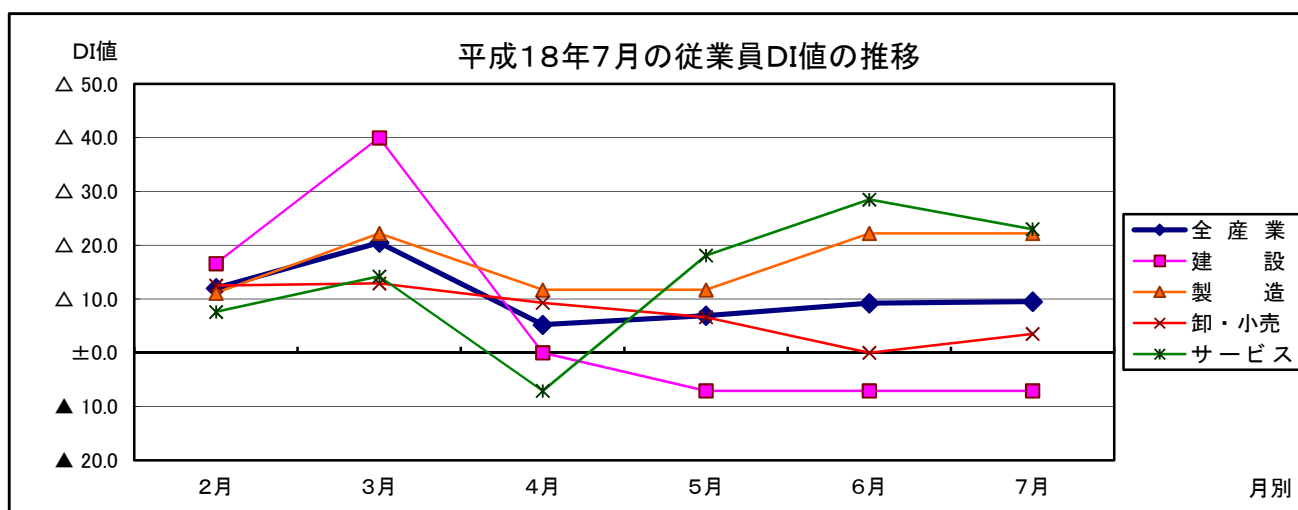
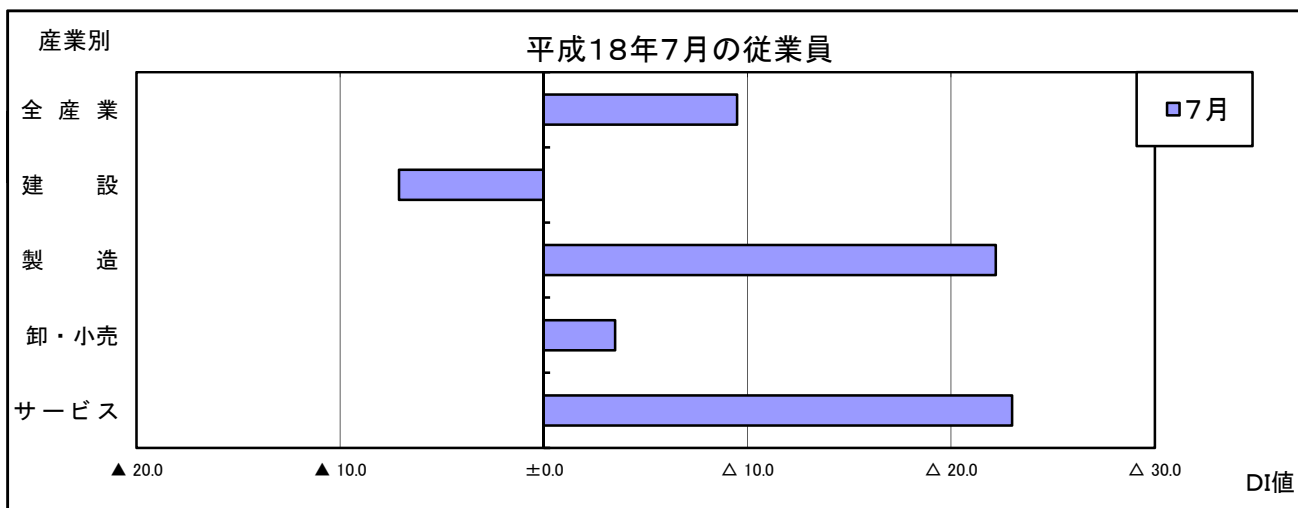
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業 $\Delta 3.5$ (同 $\pm 0.0$ )である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業 $\Delta 23.0$ (同 $\Delta 28.5$ )である。変らない業種は、建設業 $\blacktriangle 7.1$ (同 $\blacktriangle 7.1$ )、サービス業 $\Delta 22.2$ (同 $\Delta 22.2$ )である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、 $\Delta 12.3$ (前月水準 $\Delta 7.8$ )となり、プラス幅が $\Delta 4.5$ ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業 $\Delta 22.2$ (同 $\Delta 11.1$ )、卸小売業 $\Delta 7.1$ (同 $\Delta 6.6$ )である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業 $\Delta 23.0$ (同 $\Delta 28.5$ )である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業 $\pm 0.0$ (同 $\blacktriangle 14.2$ )である。

平成18年7月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	$\Delta 12.0$	$\Delta 20.5$	$\Delta 5.2$	$\Delta 6.9$	$\Delta 9.2$	$\Delta 9.5$	$\Delta 12.3$ ( $\Delta 7.8$ )
建設	$\Delta 16.6$	$\Delta 40.0$	$\pm 0.0$	$\blacktriangle 7.1$	$\blacktriangle 7.1$	$\blacktriangle 7.1$	$\pm 0.0$ ( $\blacktriangle 14.2$ )
製造	$\Delta 11.1$	$\Delta 22.2$	$\Delta 11.7$	$\Delta 11.7$	$\Delta 22.2$	$\Delta 22.2$	$\Delta 22.2$ ( $\Delta 11.1$ )
卸・小売	$\Delta 12.5$	$\Delta 12.9$	$\Delta 9.3$	$\Delta 6.6$	$\pm 0.0$	$\Delta 3.5$	$\Delta 7.1$ ( $\Delta 6.6$ )
サービス	$\Delta 7.6$	$\Delta 14.2$	$\blacktriangle 7.1$	$\Delta 18.1$	$\Delta 28.5$	$\Delta 23.0$	$\Delta 23.0$ ( $\Delta 28.5$ )



【平成18年7月の資金繰りについての状況】

○ 7月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.2(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大した。

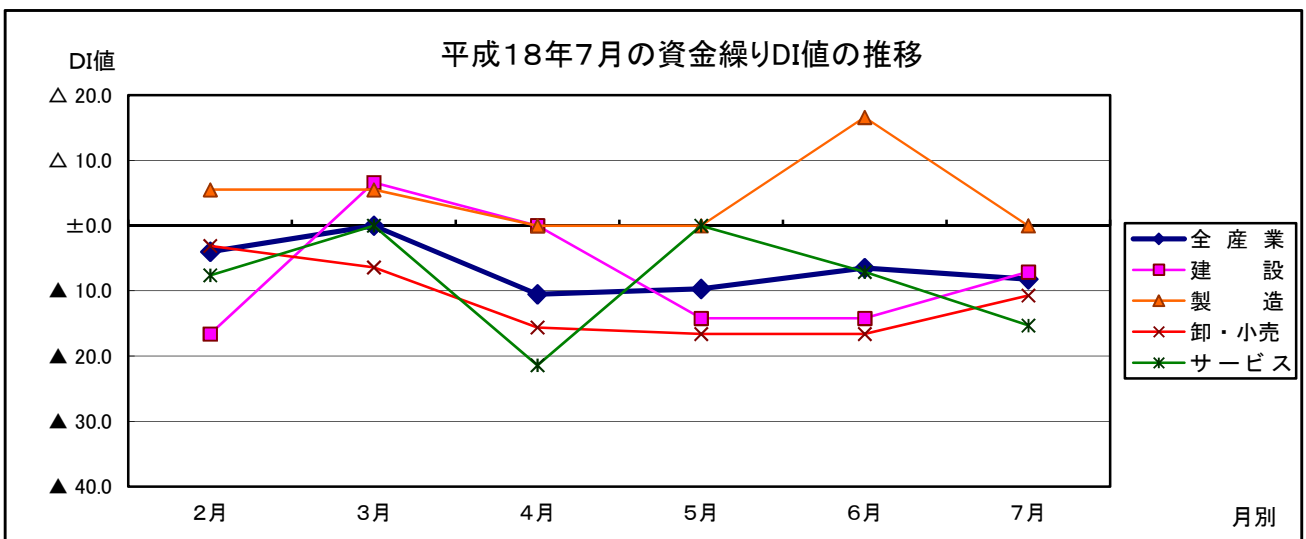
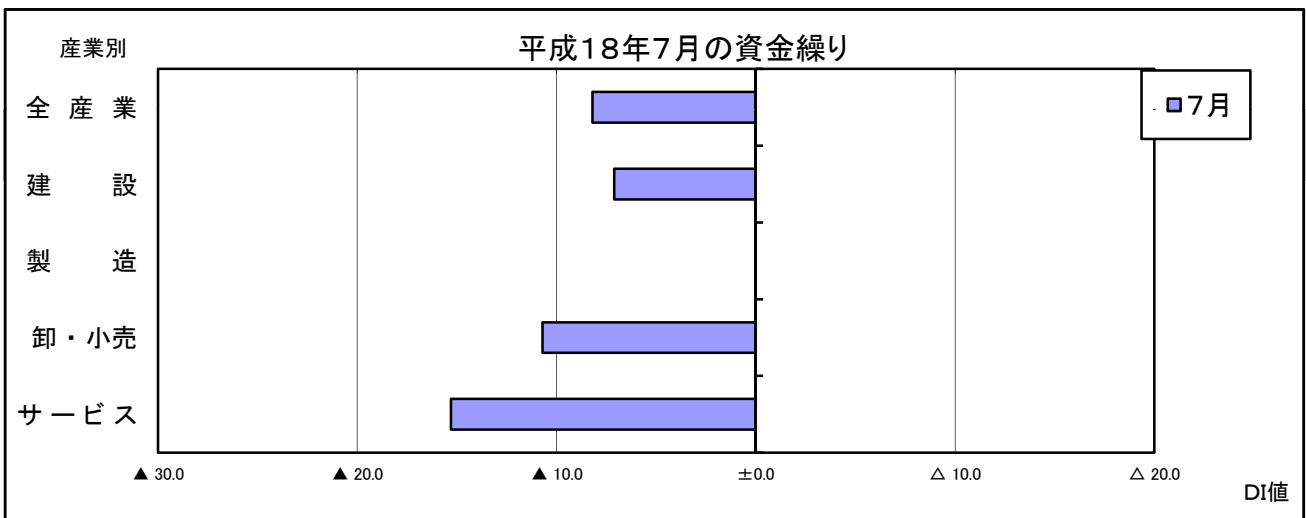
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲7.1(同▲14.2)、卸小売業▲10.7(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.3(同▲7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.4(前月水準▲17.1)となり、マイナス幅が△11.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲35.7)、卸小売業▲7.1(同▲13.3)、サービス業▲15.3(同▲21.4)、製造業±0.0(同▲5.5)である。特に、建設業はマイナス幅が△35.7ポイントと大幅に縮小する見通しである

平成18年7月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8月~10月(7月~9月)
全産業	▲4.0	±0.0	▲10.5	▲9.7	▲6.5	▲8.2	▲5.4(▲17.1)
建設	▲16.6	△6.6	±0.0	▲14.2	▲14.2	▲7.1	±0.0(▲35.7)
製造	△5.5	△5.5	±0.0	±0.0	△16.6	±0.0	±0.0(▲5.5)
卸・小売	▲3.1	▲6.4	▲15.6	▲16.6	▲16.6	▲10.7	▲7.1(▲13.3)
サービス	▲7.6	±0.0	▲21.4	±0.0	▲7.1	▲15.3	▲15.3(▲21.4)



【平成18年7月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード
建設	受注競争は依然として厳しく、仕事量は増加但し採算の合わない物件多い。原材料それに拘る材料等の値上げなど利益が圧迫される、見直しを余儀なくされる時期とも思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注競争</li> <li>・物件あり</li> <li>・不採算物件</li> <li>・仕入上昇</li> <li>・利益圧迫</li> </ul>
	メーカー材料が、4～7月に単価の値上げをしたため利益を圧迫、原油高の影響はまだ続きそう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入上昇</li> <li>・利益圧迫</li> <li>・原油高騰</li> </ul>
	仕事量は変わらないが請負単価が落ちている。人手は必要としているが給料等(特に賞与)は下げざるを得ない状況である。今後益々独自性のある営業展開が必要と思われる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注単価下落</li> <li>・人件費削減</li> </ul>
	梅雨のためか少し動きが悪い様です天気が良くなれば良くなると思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響</li> </ul>
製造	飲料主要メーカー 1～6月は前年比99%で終了。6月の気温は平年に比べると-0.4℃ 昨年に比べると-1.2℃となった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響</li> </ul>
	北越製紙を巡り、三菱商事からの出資を受け傘下に入ると発表したが、王子製紙がTOBを実施すると発表するなど、大企業同士の争奪戦が繰り広げられ成り行きが注目される。ついに日本にも「弱肉強食」の時代が来た感がする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;A</li> </ul>
	引き続き原油が高騰し原材料価格が上昇し利益が圧迫されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油高騰</li> <li>・仕入上昇</li> <li>・利益圧迫</li> </ul>
	複写機業界は好転しており当社への注文が一時的に増加しているが、今後先方での製品在庫の調整により右肩上がりは難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複写機業界好転</li> <li>・在庫調整</li> </ul>
	ユニットハウスのレンタルは好調を維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタル好調</li> </ul>
卸・小売	社会の暗いニュースや悪天候は思っている以上に業況に悪影響を与えていると思われまます。ただ、今月地方へ出張に行きましたが、柏はまだまだ恵まれているなと感じました。	
	中元商戦は前年売上をやや上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中元商戦</li> </ul>
	競合(南柏イオン)オープン以来、衣料・住居の昨割れが続いている。(食品は昨年比維持) 客数、単価ともに低下しており厳しい状況、梅雨が長引いていることが痛い。1人当りの買上実数は上昇しているが、それ以上に平均単価の下落が続いており、荒利もとれていない状況です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競合店の影響</li> <li>・衣料品・住居売上減少</li> <li>・食品売上横這い</li> <li>・客数減少</li> <li>・客単価減少</li> <li>・天候の影響</li> <li>・平均客単価減少</li> </ul>
	今月は、総体的に野菜・果実とも入荷減少しているが、単価高による推移をしています。しかし、売上はわずかに減少、また、消費動向は依然厳しい状況にあります。これからの夏の商材を宣伝し、消費拡大を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜・果物入荷減</li> <li>・単価増加</li> <li>・売上減少</li> <li>・消費低迷</li> </ul>
	前月のたばこ値上げに対する駆け込み需要の反動で、たばこの売上げが落ちた。その他、天候の影響でビール・ソフトドリンク、アイスクリームなど暑さで売れる商品が振るわない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上減少</li> <li>・天候の影響</li> </ul>
	雨の日は客足が悪いです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響</li> </ul>

【平成18年7月の業種別業界内トピックス】

	当社と取引のある厨房機器メーカーと流通問屋の2社が経営破たん。細かいサービスの展開で学用品関係を中心に売上利益とも増収。学生衣料、プール用品とも前年比増好調。流通問屋の破綻で商品の遅配が心配。多少影響がでると思う。秋の「ららぽーと」のオープンもマイナス要因。飲食(外食)柏の葉近辺でオーナー(経営者)の交代が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営破たん</li> <li>・売上増加</li> <li>・利益増加</li> <li>・季節商品</li> <li>・大型店出店計画</li> </ul>
	虫さされ薬、水虫薬、日焼止め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節商品</li> </ul>
	原油価格上昇気配、末端価格も上昇?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油高騰</li> </ul>
	ガス瞬間湯沸器CO中毒事故が発生。職業柄、北朝鮮から発射されたテポドン2号より脅威的。今回の事故発表により電力に切替わる確率が又高まった。弱り目にたたり目だ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO中毒事故</li> <li>・電化</li> <li>・先行き不安</li> </ul>
	景気は悪い。イオンの影響がかなり大きい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競合店の影響</li> </ul>
	プロパー売上不振 催事の成否が売上のカギを握るようになって来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上不振</li> </ul>
	天候が安定せず、見切りに入った夏物の動きが良くない。秋物に期待したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響</li> <li>・夏物商品</li> <li>・秋物商品</li> </ul>
	7月度、月初では天候不順だったことや、セール前の買い控えもみられたことから、入店客数・売上共に低調な推移となった。6日から開催したSuper6Daysでは、期間中売上最高額の7億1千万(前年比103.0%)を達成し、月初の落ち込みをカバーすることが出来た。セール終了後はSUPER FINALを開催したが、中旬以降天候不順が続くことから、後半に掛けて厳しい状況が予想される。月末7/26から「おいしいウィーク」を開催し、館内への集客をはかり、売上に繋げていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候の影響</li> <li>・客数減少</li> <li>・売上減少</li> <li>・セール好調</li> </ul>
サービス	予約客は動き始めて来ているが、依然フリー客の動きがにぶい。景気が良くなっていると言うが大企業だけなのでは?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約客</li> <li>・フリー客</li> </ul>
	例年、暑さで来店客が減るが、柏まつり等の地域イベントで人を集めてもらいたい。賃貸物件も設備が劣る所は厳しい。(空調なしなど)	
	ハード面(施設)の改装工事を8月に行なうので、今後の集客力と利用率の向上を期待している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備投資</li> </ul>
	スポーツ団体(Jリーグ) 展示会とも好調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊好調</li> <li>・展示会好調</li> </ul>

## 【平成18年7月の多い景気キーワード】

### ◎天候の影響

- ・ 梅雨のためか少し動きが悪い様です天気が良くなれば良くなると思います。 (建設業)
- ・ 6月の気温は平年に比べると-0.4℃ 昨年に比べると-1.2℃となった。 (製造業)
- ・ 客数、単価ともに低下しており厳しい状況、梅雨が長引いていることが痛い。 (卸小売業)
- ・ 天候の影響でビール・ソフトドリンク、アイスクリームなど暑さで売れる商品が振るわない。 (卸小売業)
- ・ 雨の日は客足が悪いです。 (卸小売業)
- ・ 天候が安定せず、見切りに入った夏物の動きが良くない。秋物に期待したい。 (卸小売業)
- ・ 月初では天候不順だったことや、セール前の買い控えもみられたことから、入店客数・売上共に低調な推移となった。 (卸小売業)

### ◎売上・受注・客数減少



- ・ 競合店のオープン以来、衣料・住居の昨割れが続いている。客数、単価ともに低下しており厳しい状況。1人当りの買上実数は上昇しているが、それ以上に平均単価の下落が続いており、荒利もとれていない状況です。 (卸小売業)
- ・ 今月は、総体的に野菜・果実とも入荷減少しているが、単価高による推移をしています。しかし、売上はわずかに減少、また、消費動向は依然厳しい状況にあります。 (卸小売業)
- ・ 前月のたばこ値上げに対する駆け込み需要の反動で、たばこの売上げが落ちた。 (卸小売業)
- ・ 月初では天候不順だったことや、セール前の買い控えもみられたことから、入店客数・売上共に低調な推移となった (卸小売業)











## 平成18年7月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲24.0で、マイナス幅が7.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。中でも10ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.1に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で、マイナス幅が15ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。中でも10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.2に対し、「CCI-LOBO」が▲27.0で、マイナス幅が3.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業。中でも10ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。中でも10ポイント以上悪い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲36.9に対し、「CCI-LOBO」が▲28.5で、マイナス幅が8.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業。中でも10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△9.5に対し、「CCI-LOBO」が▲1.4で、プラス幅が10.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.7で、マイナス幅が9.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業・サービス業。中でも10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。











# 平成18年7月の柏の景気天気図








柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.4	 42.8	 22.2	 21.4	 30.7
CCI LOBO	 24.0	 36.5	 8.3	 22.4	 31.4


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.1	 14.2	 38.8	 14.2	 30.7
CCI LOBO	 19.1	 30.9	 3.2	 20.9	 23.4


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.2	 64.2	 22.2	 32.1	 23.0
CCI LOBO	 27.0	 37.1	 17.9	 23.0	 32.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 36.9	 42.8	 50.0	 32.1	 23.0
CCI LOBO	 28.5	 38.6	 42.3	 14.3	 21.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 9.5	 7.1	 22.2	 3.5	 23.0
CCI LOBO	 1.4	 18.2	 0.7	 6.6	 1.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.2	 7.1	 ±0.0	 10.7	 15.3
CCI LOBO	 17.7	 28.9	 10.9	 15.0	 21.8

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (7月速報)

調査期間：平成18年7月20日～26日  
 調査対象：全国の406商工会議所が2584業種組合等にヒアリング調査を実施。

### 全国の業況

業況DIは3カ月ぶりにマイナス幅縮小も、仕入コスト上昇等の懸念材料あり

七月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同し)は、前月水準(一七五)よりマイナス幅が三・五ポイント縮小して二四・〇となり、三カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

【建設業】では、「工事の発注時期を迎えて受注量が増え、受注金額は低いものの、経営状態が少しは改善する見込み」(建築工事)、「この時期は大体受注が増える時期であり、売上が増加している」(一般工事)との声がある一方、「原油価格高騰により資材の仕入価格や輸送費が上昇しており、当分の間、業況は低迷したままと思われる」(一般工事)との声も寄せられている。

【製造業】では、「婦人服向け製品は一服感があるものの、輸出向け製品や浴衣などを中心に堅調な推移を見せている」(繊維製造)、「工作機械や自動車関連の受注は好調を維持しており、この勢いは今年一杯続く」と予想している(非鉄素材形材製造)との声がある一方、「受注減少に加え、原油・原材料価格の高騰による仕入コスト上昇分を価格転嫁できない状況が続いている」(金物類製造)とのコメントに加え、「原油価格高騰に加え、借入金金利上

昇も利益圧迫要因になりつつある」(茶・コーヒー製造)と金融機関からの金利上昇を懸念する声も寄せられている。

【卸売業】では、「少々ではあるが、業況は好転への動きを見せ始めた」(その他の卸売)との声がある一方、「多くの会員企業で売上が対前年同月比で減少しており、景気回復の実感に乏しい」(各種商品卸売)とのコメントのほか、「借入金金利の上昇が予想されることから、今後、資金繰りで苦慮するだろう」(食料・飲料卸売)と金融機関からの借入金利上昇による資金繰り悪化を懸念する声も寄せられている。

【小売業】では、「違法駐車取締強化や雨天の影響で来店者数は減少するものの、所得の増加などを背景に売上は好調」(商店街)との声がある一方、「原油高やゼロ金利政策解除で予想される借入金利上昇によるコスト上昇分をどうやって吸収するかが課題」(百貨店)とのコメントのほか、「梅雨の長期化による来店者数の減少で売上が落ち込んでおり、非常に苦しい状況に追い込まれている」(その他の小売)と天候不順による悪影響を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「定年退職を迎えつつある団塊世代の消費活動が活発化している感がある」(旅館)との声がある一方、「原油相場が一バレル七〇ドルを超える水準で推移して

おり、国内の軽油価格に大きな影響を与えている」(運送業)と原油価格高騰による影響を訴えるコメントのほか、「梅雨が長引いているため、例年よりも来店者数が少なく売上が落ち込んでいる」とも、日照不足の影響で野菜の仕入価格が上昇している(他の一般飲食店)と、天候不順による悪影響を訴える声も寄せられている。

### 七月のキーワード

#### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待という声が寄せられている。「民間住宅着工戸数が、わずかではあるが上昇傾向にある」(建築工事)、「少しずつ工事を受注できるようになり、先行きの見通しも明るくなった」(一般工事)との声のほか、「デジタル家電や自動車部品メモリーカードなどの受注は依然高い水準を保っている」(工業用プラ

スチック製造)とのコメントも寄せられている。また、「取引先店舗の売上高が伸びて当社からの出荷も増えており、今後しばらくは好調を維持できると考えている」(農産畜産水産物卸売)、「来店者数、販売単価が前年同月を上回っており、景気回復による所得増加が旺盛な購買意欲、積極的な消費活動へとつながったものと思われる」(百貨店)と消費好調を指摘する声のほか、「市内の工場で行われている設備の定期点検関係者が大量に宿泊しており、売

上は前年同月比で増加している」(旅館)とのコメントも寄せられている。

#### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷や資金繰りの悪化など先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設製造、卸売からは、「資金を借り入れる際、金融機関から受注計画の提出を求められるが、公共事業の激減で受注計画が立てられず、資金調達もままならない」(一般工事)、「仕入価格や借入金利の上昇に対して販売価格を値上げすることは困難であり、採算は悪化する見込み」(鉄形材製造)、「今後、借入金利がどの程度上昇するのかが不透明であり、資金繰りへの影響が心配である」(農畜産水産物卸売)との声も寄せられている。また、小売、サービスからは、「今日は雨の影響を受けて家電・夏物衣料の売上が不振であるとともに、野菜や果物の仕入価格が値上がり傾向にある」(百貨店)、「梅雨が長引いて天候が悪い日が続いたせいか、冷たい飲料の売上が悪く、今後の売上増加は期待できない」(他の一般飲食店)とのコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇  
 また、引き続き、原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設製造からは、「発注が開始されたものの昨年度より件数が減少し

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	26.6	37.3	12.7	35.7	26.6	30.8
3月	23.5	36.4	10.7	33.3	21.6	27.8
4月	22.3	40.7	11.5	25.5	18.3	26.1
5月	23.6	40.0	10.5	32.3	22.4	24.6
6月	27.5	44.1	16.1	31.5	23.4	32.5
7月	24.0	36.5	8.3	31.8	22.4	31.4
見通し	21.3	34.3	14.1	26.3	16.9	23.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

ているとともに、原油価格高騰により関連製品の仕入コストが上昇し始めている」(土木工事)、「昨年より七回もの原材料仕入価格の値上げが行われた一方、販売先との納入価格引き上げ交渉は難航している」(その他プラスチック製造)との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、銅製品の仕入コストの上昇幅が大きく、得意先への納入単価の引き上げ交渉が必要(その他卸売)、「原油価格高騰による包装資材の仕入コスト上昇で販売単価を上げたが、買い控えを誘発して売上は下落傾向にある」(百貨店)、「依然として原油価格高騰の影響を受けており、状況は厳しさを増している」(自動車整備)といったコメントが寄せられている。